



富嶽三十六景展

葛飾北斎

江戸本所割下水（現在の墨田区・両国付近）に生まれる。
 19歳の時、浮世絵界きっての巨匠・勝川春樹に入門し「春明」と号して役者絵などを描いた。のち狩野派をはじめ、大和絵や琳派、雪舟流、中国画など、各種の流派や画風を学習し、自己の作風へ吸収していった。なかでも西洋画の影響は大きく、陰影法や遠近法を駆使した風景画はやがて名作『凱風快晴』を含む『富嶽三十六景』へと大成していく。
 北斎の旺盛な制作意欲は、肉筆美人画、狂歌絵本、読本挿絵など多分野に注がれ、『北斎漫画』全15冊、『富嶽百景』全3冊などを次々と生み出した。北斎は、生涯に亘って何事においても一点に安住することなく、自己改造・自己変革に努め、改号すること30回以上、転居すること93回という奇行は伝説的どころか、新しい表現の追求と旺盛な想像力のもとに生み出された作品は、西洋の画家たちに大きな影響を与え、今なお世界で最も有名な日本人画家のひとりとして記憶されている。



- 1760年頃 武蔵国葛飾郡本所（現・東京都墨田区）にて貧しい百姓の子として生まれる
- 1764年 貸本屋の丁稚、木版彫刻師の徒弟をやる
- 1778年 浮世絵師・勝川春章の門下となるこのころ狩野派や唐絵、西洋画などあらゆる画法を学ぶ
- 1795年 「北斎宗理」の号を用いる
- 1802年 狂歌絵本『画本東都遊』刊行開始
- 1805年 「葛飾北斎」の号を用いる
- 1812年 関西方面へ旅行
- 1814年 「北斎漫画」の初編を発売
- 1823年 「富嶽三十六景」の制作開始（1833年に完成）
- 1834年 「富嶽百景」
- 1844年 「怒涛図」
- 1849年 江戸・浅草聖天町の偏照寺境内の板宅にて没す。享年90

2020年4月～2021年3月(予定)

周辺景勝地



仙娥滝



石門



覚円峰の紅葉

SYOSENKYO
SHADOW PICTURE
ART MUSEUM

春は新緑あざやかに、夏は涼風そよぐ溪谷散歩。
 秋は紅葉に染まり、そして訪れる物寂しい冬は水墨画のように四季それぞれの美しさがあります。

Shop&Restaurant

自然の恵みと山梨のお土産が大集合!



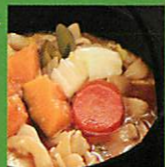
森の駅 昇仙峡

SHOP & CAFE RESTAURANT

ほうとう処 花仙雨

昇仙峡の名水で作る伝統の味

第五回
ほうとう味くらべ
真剣勝負にて



「ほうとうの達人」の称号を獲得!



無添加無加工の山梨県産生はちみつをたっぷり使ったソフトクリームやドリンクが大好評です。

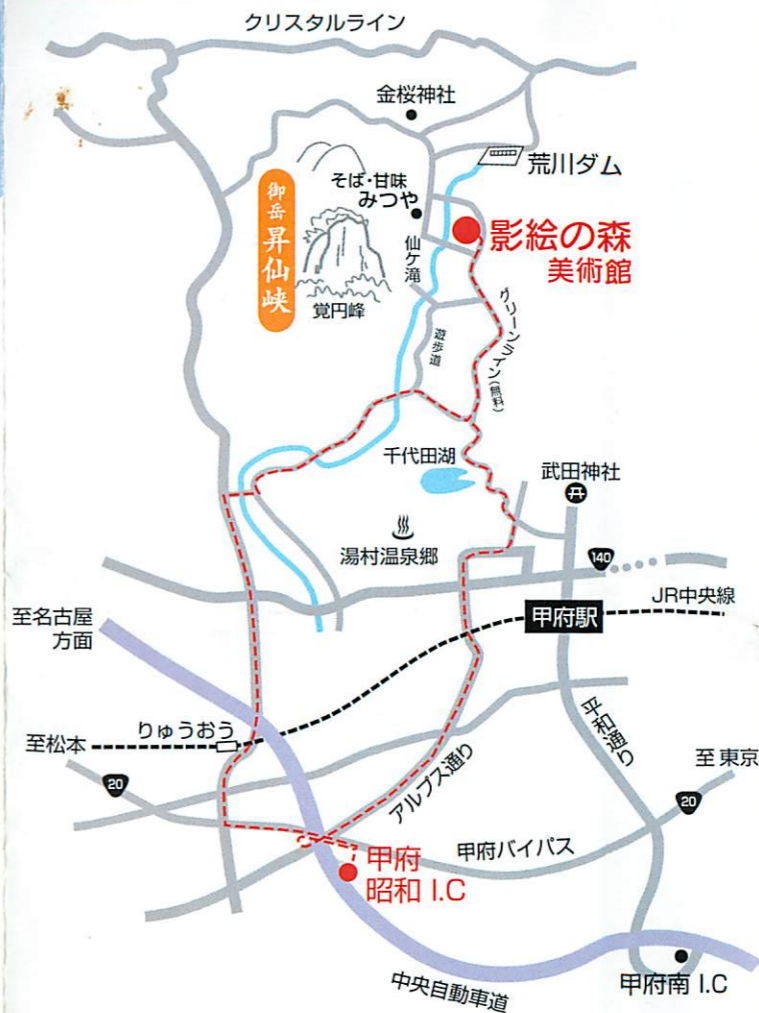


山梨県産 おみやげ SHOP

広く明るい店内には、格段履き草餅・甲州印伝等 山梨のお土産を数多く取り揃えております。
 特にこだわりのオリジナルはちみつコーナーでは山梨県産にこだわり自社提携養蜂園で作られた「生はちみつ」がおすすめです。



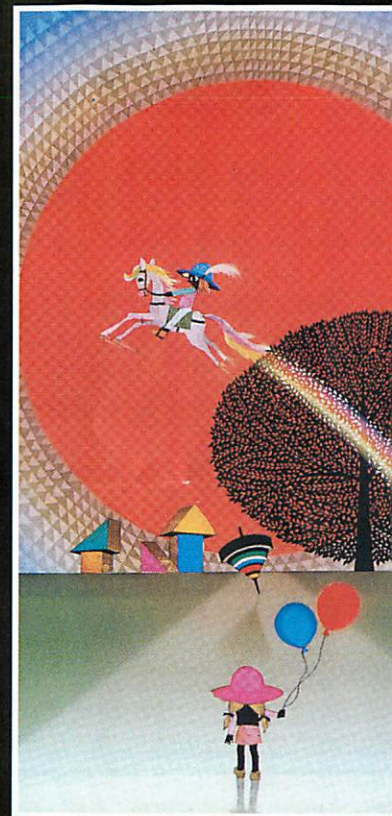
ACCESS



INFORMATION

開館時間 / 午前9時～午後5時 年中無休
 入館料 / 一般900円 中高生600円 園児300円 小学生500円
 ※20名様以上800円 ※障害者割引あり
 ※小・中学生の遠足は特別料金

昇仙峡 影絵の森 美術館



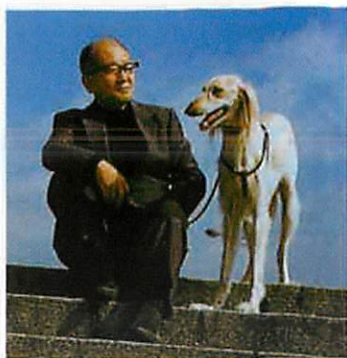
1994年世界初! 影絵の森

A world's first shadow picture art museum

TEL.055-287-25

http://www.kagenomori.jp

〒400-1214 山梨県甲府市高成町1-1



1936年慶応普通部入学。1945年海軍で
備へ。人形劇を部下の少年兵たちとも行う。
、本格的に人形劇に取り組もうと考えてい
出会う。著者・小沢愛園氏を訪ね、その時
ヤワの影絵人形にすっかり心を奪われ、影絵
の空き箱や包み紙などを使って、手作りの
見せ始める。同じ頃、猪熊弦一郎氏に絵画
所などモダンな作風に藤城氏が受けた影響

会劇団「ジュヌ・パントル」を結成。

学部卒業。テアトル系の映画会社の宣伝
映画は映画のカット割りや画面の構図など、
と話す。

創刊した「暮らしの手帖」で人形劇の写真を
れる。その3号目の打合せの時に突然停電
明かりの中で影絵の話が出て、影絵を連載
手最初の影絵絵本「ぶどう酒びんのふしぎな
体をこわし、会社を辞職、影絵一筋に創作
。

毎日曜日影絵を連載。何でもすきなように
れ、こびとが頭に浮かんできたのだという。
ルホテルで影絵展を開き、以後毎年の定期
ハプニングで影絵を破られたことがあり、
込んでしまう。
文化親善大使としてアラブなどを訪問、影絵
公演は思い出深いものであったと、氏は今

開催の国際船と海の博覧会の公式ポスターを
影絵美術館完成。1995年春の叙勲で勲四等



光とファンタジーを求めて

心の描く影絵、はっと息をのむ美しさは 逆光線がかもしだす魅力。



「影絵の切った線の美しさは、切り絵に共通
しているけれど、ほくは切り絵のあの黒い
線でつながった、東洋的な郷愁を誘う素朴
な力強さというものにいいなと思う反面、
あくの強さを感じてしまうんです。」と氏は
いう。切り絵は、白と黒のインパクト、シル
エットの美しさに魅力がある。
影絵は光に透かして見た鮮烈な光の美しさ
と透明感にあると言える。

夕焼けに真っ赤に染まった空をバックにし
た山や木。これは赤い色があるから黒い影
が強調される。影絵で色の部分をとってし
まったら何だかわからなくなる。色は影絵
の中で表現力をもっているのだ。だからこ
そ逆光で見た色の透明感が大切になる。
様々な紙を使ったりトレーシングペーパーを
何枚も重ねたり、実に細かい作業を経てや
と一枚の影絵ができる。

氏は、あの細かい木の葉を切るのがとても
楽しいという。「一枚として同じ形の葉はない
から、とてもおもしろい。それにほくは葉で
はなく葉と葉の光の空間を切っているのです。
光の空間を切り取って初めて影となる葉がで
きますね。ほくの影絵は影ではなく光を追求
しているのです。」

心に焼きついてはなれない影絵の世界

“世界的影絵の巨匠”藤城清治氏が自ら監修設計した、世
界で最初の美術館。展示室は地下、真っ暗闇の中に動物
が、こびとが歌ったり踊ったり、人魚姫が海を軽やかに
泳いだり、赤、桃色、黄色、青、緑に紫・・・淡く強く、
楽しそうに浮かびあがる色の数々、影絵原画のもつ光と
影のコントラスト、鋭い切り口から生まれる際立った線
とそこから溢れ出るファンタジックな色彩の美しさに、
すべての人が驚かされる。
何回訪れても、そのたびに新鮮な感動があたたかく心に
響いてくる。

日本のゴッホ やま した きよし 山下 清



大正11年・東京浅草に生まれる。
昭和9年・八幡学園に入り貼絵を始める。
昭和11年・文芸春秋に作品発表される。
昭和15年・八幡学園から突然消え、放浪生活が始まる。
昭和25年・甲府の昇仙峡を訪れ、渓谷を散策した。又、この年 貼絵(昇仙峡)を完成した。
昭和31年・放浪の旅を終える。東京大丸デパートで、
山下清作品展が開催され、1ヶ月で80万人の
観覧会動員数を記録。
昭和36年・ヨーロッパ旅行に出発。帰国後「ヨーロッパ
作品展」の全国巡回開催。
昭和39年・旅の記憶のもとに貼絵「グラバール」完成。
昭和40年・「東海道五十三次」の取材をはじめ。
昭和46年・7月12日没



Keiko Utsumi

どどいつ絵画 うつ み けい こ 内海 桂子



大正11年 9月12日生まれ。
昭和13年 高砂家とし松と漫才初出演
昭和25年 内海好江とコンビ結成
昭和33年 NHK漫才コンクール優勝
昭和36年 芸術祭奨励賞受賞
昭和55年 日本芸能実演家団体協議会功労者表彰
昭和57年 芸術選奨文部大臣賞受賞
昭和62年 日本放送演芸大賞功労賞受賞
平成元年 紫綬褒章授賞
平成2年 浅草芸能大賞受賞
平成6年 第45回放送文化賞受賞
平成7年 勲四等宝冠章授賞
平成10年 漫才協団会長に就任
平成14年 銀座三越にて初個展開催
平成17年 社団法人漫才協会初代会長に就任
平成19年 同協会名誉会長に就任

